

平成 26 年度 初任職員研修会 参加報告

遠藤 健太郎

1. はじめに

平成 26 年 4 月 21 日から 4 月 23 日に学術総合センターで行われた、初任職員研修会(国立高等専門学校機構主催)に参加した。参加者は 76 名(参加校 39 校)であった。

2. 日程

<1 日目>

- 13:00-14:00 理事長講話
「国立高専の現状と課題」
- 14:00-14:30 講話
「男女共同参画・ワークライフバランスについて」
- 14:30-16:00 講義
「法規について」
「文書管理について」
- 16:00-17:30 先輩職員との懇談
グループワーク
- 18:00-19:30 情報交換会

<2 日目>

- 9:30-12:00 講義・ワーク
「職員としての心構え、倫理、コンプライアンス」
- 13:00-17:30 講義・ワーク
「仕事の進め方」

<3 日目>

- 9:30-12:00 講義・ワーク
「ビジネスマナー」
- 13:00-15:30 講義・ワーク
「職場におけるコミュニケーション・チームワーク」
「キャリアデザイン」
「研修のまとめと今後の実践」

3. 参加した感想

理事長講話を聴講して、高専は運営費交付金が東大に次いで高く、高卒、大卒のデメリットを解消した教育機関であるため、国内外で高い評価を得ていることが改めて分かった。また、高専卒の学歴が占める割合は同世代で 1%、エンジニアで 10%程度であり、日本の技術者の中に多くの高専出身者がいることを実感した。

しかしながら、高専の抱える課題として、少子高齢化による学生確保の問題、国の財政難による予算減少、大学の高専教育化への対抗策、グローバル人材の育成対応等の複数が挙げられ、今後教職員に求められる仕事の内容・質は共に高くなっていくことが伺えた。これからは社会貢献・ニーズへの対応等の時代にマッチした活動をしながらも学生を第一に、意味ある業務を遂行していく必要性を感じた。そのような流れに対応していくためにも各人が日々成長していく必要があり、講師のアドバイスの 1 つとして職場等で優れた人材を見つけ、向上心を生む状態を作り上げ、イエスマンにならず自分の考えをしっかりとって行動することが重要であることが挙げられた。

また、先輩講話(技術職員の方)では高等教育機関は学び続ける姿勢が重要であり、「自己研鑽に励む」・「コーチング技術」・「心に火をつける」の 3 つのキーワードを含んだ成長するためのアドバイスもお聞きすることができ、自身の業務にも取り入れていきたい。他にも本研修では仕事の進め方やビジネスマナー等、社会人として必要な知識を再確認・習得できたので前述のアドバイスを含め実業務に反映させ日々精進していきたい。